



みみの おたより

NO.1

～聞こえに関する話～

まず…補聴器を着ければ、同じように『聞こえる』と思ってはいけません！

補聴器は万能ではありません。眼鏡のように度を上げれば見やすくなるのとは、少し違います。補聴器を通して、音を大きく（増幅）するのにも限界があります。また、個人によって聞こえ方（聞こえる大きさや高さの幅）は違います。補聴器を着けても、聞き取りにくいし、聞こえ方も様々です。基本的に、静かな環境で、1m位の距離の声で聞きやすいように 設定されています。ということは、距離が離れれば離れるほど『聞こえない』のです。

…よって、補聴器を着けているからといって『話せばOK』と思わないこと。

…では、どんな点に気をつけて関わるとよいのでしょうか。



①話すときに 口元が見えるように 気をつける。

話す人の口の動きを見ることで、聴覚＋視覚的に、話し言葉を理解する（聞き分ける）人もいます。後ろ向きで話したり、後ろから話しかけたり、マスクを着けたまま話すと聞き取りにくくなります。できるだけ口元が見えるようにしましょう。

②ほどほどの 声の大きさ で。

聞こえないから大きな声で言えばわかる→間違いです。また、小さすぎる声は補聴器で拾えない可能性もあります。日頃から、どれくらいの声の大きさに（どれくらいの距離で）話せば伝わりやすいかを確認しておきましょう。

③視覚的なもの（実物、文字、イラスト、身振り、手話……）を合わせ技で。

聞き取りにくさをカバーする方法として、視覚的な手段を合わせます。一般的には手話、指文字（50音全てに対応した指文字があります）がありますが、**本人がわかる手段で**（身振りが伝わりやすいです）伝えるように心がけましょう。視覚的なものは補助的なものです。見せればOKではありません。



補聴器の取り扱い・手入れについて

補聴器は、**水に弱い機械**です。水に濡れることで故障の原因にもなります。修理にはお金も日数もかかります。よって、水遊びやプールなどの活動の際には補聴器を外します。雨の時は傘などをさして濡れないようにします。濡れそうなときは予め外しても良いです。ただし、外したときには『聞こえない』状態になりますので、要注意！どうやって伝えるか、**いつも以上に伝わるようにするための配慮**が必要です。

また、電池が無くなる・無くなりかけている、イヤモールド（耳の中に入っている部分）が耳垢で塞がっている・汚れていると、聞こえにくくなる原因になります。自分で管理していけるように、補聴器（イヤモールド）や電池を自分でチェックする習慣をつけて欲しいと思います。補聴器の状態を管理出来る人でも時々大人がチェックしてみるとよいですね。